

38 携帯電話のタイマー機能による自立支援

国立秩父学園指導課 関口 麗、杉崎純子、金森孝之、齋藤新一、高木晶子

1. はじめに

国立障害者リハビリテーションセンター研究所福祉機器開発部との共同研究により、自発的行動が難しい自閉症者が携帯電話のタイマー機能を利用することで自発的行動が促進されたので報告する。

2. 対象者プロフィール

Aさん（20歳）女性、診断名：自閉症・知的障害、発達検査＝4歳相当、日常生活動作：歯磨き・洗面・入浴・排泄等はほぼ自立、

コミュニケーション：＜表出＞1～2語文で単語を用いるが不明瞭＜受容＞3語連鎖の理解が可能、日常的な指示はほぼ言葉かけで可能、＜行動や習癖＞指示待ちが多い、大きな声や嫌いな音に反応し「たー」と声を出したり、耳を塞ぐ

3. 支援目標

- ・作業場所へ移動する時間になったら、携帯電話のタイマー機能の情報を手がかりに、他者から指示されることなく、3分以内に靴を履く

4. ベースラインの測定

1)ベースライン期Ⅰ 職員からの声かけによって、玄関への移動をどの程度促す事が出来るか
結果：職員の声かけでグループに行く準備が出来た。

2)ベースライン期Ⅱ キッチンタイマーを1分セットし、「タイマーが鳴ったらグループです。準備をして下さい。」と言語プロンプトをする。タイマーが鳴って3分以内に行動が出来るか
結果：タイマーの音を手がかりとして準備することは出来なかった。

ベースライン期:職員の声かけがなければ行動に移すことができない。

5. 短期目標と支援結果及び修正手続き（支援方法は紙面上記載せず）

1) 学習期Ⅰ－(1) 作業場所へ移動する時間になったら、携帯電話タイマー機能からの（音声／視覚）情報を指さしにより注視し、始発行動の身体を軽く押す援助を受けて3分以内に玄関に向かい靴を履く。

結果：達成率 75%

2) 学習期Ⅰ－(2) 作業場所へ移動する時間になったら、携帯電話タイマー機能からの（音声／視覚）情報を手がかりに、他者から指示されることなく3分以内に玄関に向かい靴を履く。

結果：達成率 10%（指さしや頷きというプロンプトがあれば達成率は 40%）

3) 修正手続き

学習期Ⅰ－(1)(2)の支援を通し、目標達成には程遠く支援方法の修正が必要となった。

修正ポイントは、

○「行動の動線を見直す」

→音声情報が流れてから、靴を履くまでにジャンパー着用等の行動があり、これを目標行

動後に変更する。

○「音声情報の追加」

→靴を履く行動までに職員に確認を求めるため、「行って下さい」という音声情報から「靴を履いて下さい」という音声情報に追加する。

○「視覚的情報の追加」

→音声情報から玄関に向かう行動を自発的に起こすため、「靴を履く」という視覚的プロンプトを追加する（このプロンプトは次第にフェイディング）。

○「環境刺激の修正」

→他者という刺激に自発的行動が阻害されていたため、刺激のない玄関に変更する。

○「支援者の変更」

→人的環境のリセットを行う。

4) 学習期Ⅱ期

支援案修正版Ⅰ

- ・作業場所へ移動する時間になったら、携帯電話のタイマー機能（音声／視覚）情報と写真カードのマッチング及び始発行動の身体を軽く押す援助を受けて、3分以内に靴を履く

結果：達成率 100%

支援案修正版Ⅱ

- ・作業場所へ移動する時間になったら、携帯電話のタイマー機能の情報を手がかりに、他者から指示されることなく、3分以内に靴を履く

結果：達成率 80%

6. 考察

自閉症児者に指示待ち行動が多く見られることは特性の一つと云えるだろう。今回の支援では自閉症児者の支援に有効とされる物理的な構造化や行動のルーティン化、注意の焦点化、視覚的情報の提供という手法を用いて、自発的行動を導くことができた。

学習期Ⅱ期途中の評価では達成率 90%になったが、その後携帯電話セット時の職員間の連絡ミスによる支援方法の一部不統一があり、そのことが原因で連続3回目達成ができないことがあった。職員間の支援方法の統一が如何に大切であるか思い知らされたことである。

今後について、この携帯電話による自発的行動を食事や入浴等、他の日常生活場面に汎化していくことが支援課題となろう。